

日本医史学会会報

49号(復刊)

平成25年10月30日

第115回日本医史学会総会・学術大会にあたって	会-1
第114回日本医史学会・学術大会印象記	会-2
第114回日本医史学会総会 会員大会	会-4
平成24年度関連医史学団体報告	会-12
雑報(寄贈本リスト)	会-20

第115回日本医史学会総会・学術大会にあたって

総会会長 ヴォルフガング・ミヒェル

(福岡市)

この度、第115回日本医史学会総会・学術大会の会長を務めさせていただくことになりました。1997年(会長・関原敬次郎先生)、2003年(会長・故原敬二郎先生)に続き、本学会の福岡地方会が国内外の会員の皆様をお迎えするのは3度目になります。2005年に4番目の国立博物館として開館した九州国立博物館(太宰府市)におきまして、2014年5月31日(土)・6月1日(日)に会員大会、学術大会を開催いたします。それに先立って5月30日(金)に行なわれる社員総会(旧理事・評議員会)の会場は、福岡市内の「ホテル福岡ガーデンパレス」となっております。役員の先生方におかれましてはお間違いのないよう宜しくお願い申し上げます。大会事務局は特定医療法人・原土井病院の地域連携室に設置致しました(準備委員長兼実行委員長・原寛先生)。

太宰府市には、学問の神様・菅原道真公を祀る太宰府天満宮をはじめ、かつて「天下三戒壇」の一つとされていた観世音寺(天台宗)、奈良時代から平安時代にかけて壮麗な建築が立ち並んでいた太宰府政庁跡など、貴重な歴史的文化的文化遺産が多数存在します。

会長講演では医史学研究的諸条件やその意義について探ってみたいと考えておりますが、特別講演(I, II)は、医学に関わる著作で数々の賞を受賞された小説家・精神科医帯木蓬生氏(福岡県小郡市出身)及び九州大学医学研究院・医学教育学部門で21世紀の医師養成について研究しておられる吉田素文教授にお引き受けいただきました。また、2014年は牛痘接種の普及に尽力したオットー・モーニケの生誕200年にあたりますので、日本における天然痘予防について取り上げる市民

向けの講座を準備しております。

九州国立博物館は、アジア各地との文化交流推進の役割も担っており、学術大会期間中にも館内の展示で古からの大陸との密接な交流の歴史をご確認いただけます。慣例に従い大会最終日の翌日(6月2日)に行なわれる秋月、日田方面へのエクスカージョンでは、緒方春朔、広瀬淡窓らの足跡

をたどる予定です。また、福岡の豊かな歴史を楽しんでいただけるよう、大型の医跡・歴史図を、今回の大会向けに新たに作成し直す予定です。これも皆様の今後の研究あるいは観光のための一指针になり得ると考えております。

福岡地方会会員一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第114回日本医史学会学術大会印象記

功労会員 小林 晶

(福岡市)

第114回日本医史学会総会学術大会は去る平成25年5月11日および12日の2日間にわたって、西巻明彦会長のもとに日本歯大生命歯学部九段ホール・富士見ホールで開催された。本学会は第41回日本歯科医史学会と合同総会として共催で行われた。このため学会参加者も236名に達した(学会本部集計)。

演題は会長講演1、特別講演4、一般演題119題(内誌上発表18題)で2会場を使用して発表された。

本印象記は筆者が直接見聞した演題についてのみ記述することをお許し戴きたい。ことに第1と第2会場の進行が並行しているため、止むを得ず第1会場のみ演題が中心になっていることもお断りしておく。

西巻明彦会長は「19世紀初頭の日本における痘瘡対策」と題して講演された。本邦における天然痘の治療、種痘、予防の側面から論考を加えられた。我が国では一時漢方医学が断絶した時期を、医史学でこの空白を埋める必要があるとの見解から、本研究を行われた。18世紀後半から19世紀前半に活躍した緒方春朔をはじめとする多くの医師が急速に種痘の普及に努めたのは、当時の革命的な社会変化の中で、きわめて優れた功績と結論とされている。よく整理された理解し易い啓蒙講演であった。

特別講演は鈴木晃志郎先生「外的表象としての史料」、花輪壽彦先生「漢方医学の特質」、磯田道史先生「19世紀武家社会と医学・歯科医学をめぐって」、酒井シヅ先生「江戸時代の病い」の4題があった。それぞれの部門で研修には最適の話題ばかりで、社会あるいは庶民と歴史の関連を興味深く解説された。特に、鈴木晃志郎先生(富山大学人文学部準教授)は「医史学における批判地図学の応用可能性について」の副題があるように、我々には馴染みのない分野からの講演であった。批判地図学(critical cartography)は地図を主観やイデオロギーの産物と捉え、図の表現や内容を分析の対象とするアプローチである。この分野で地図は医史学という文献、故事来歴に当たると考えられことから、両者は批判的史料分析の関心や可能性を共有する研究領域と言えると論者は結論している。この意味で、今後大いに両者の間で対話を持ちたいと希望された。甚だ示唆に富む話で、医史会では全く知られなかった門戸が開かれた感を深くした。この演題を新しい眼を持つために採用された、執行部の英断に敬意を表する次第である。普段知ることの少ない側面もうかがえて、一般の参加者にも好評を得たのではないかと推測している。

一般演題で筆者が関心を持った演題について述べる。

川端美季先生の「明治期の日本における入浴に対する認識の変容」は社会史の中で、重要な事柄を取り扱った演題である。江戸時代から移行してきた習慣が、入浴に対する西洋の知識が導入されるにつれての変容は、階層・年齢・地域などによって異なるのは当然である。温泉に対する概念が洋の東西で差があるのも、最近ではよく知られている。傾聴に値する話であった。

松木明知先生の「華岡直道の外科の師岩永氏と華岡青州の外科の師岩永氏について」は何時ものように多数の古文書の探索から、直道の師は岩田盤玄ではなく、その子寿跡であろうと推論されている。また、青洲の師は京都の岩永左門一貞吉の系譜であろうとも述べられた。松木先生の青洲に関する研究は留まることを知らない。

金川英雄先生の「大川周明と進行麻痺」では、大川が1951年に全快したと内村裕之が認めたという。裁判中の奇行を考えると興味深い。

柳澤波香先生の「ウィットントン病院の成立」は、英国での病院の発達を知る上で貴重な資料の一つである。このシリーズの発表は是非将来まとめて出版して戴きたいと思う。

坂井建雄先生の「シデナム」をはじめとする順大解剖学教室一門の発表、永田和弘先生の「ダ・ヴィンチ」、渡部幹夫先生の「レメリン」も、この学会の積年の努力の成果がみられた。16～17世紀の西欧の文献の解読、精査は深い知識と努力が必要なのに、素晴らしい成果と考える。

相川忠臣先生の「ポンベの講義録」もディーフェンバッハを精読された跡が歴然としていて、多くのことを教えられた。

済生学舎および日本医大関係の演題は4題あった。この話題もここ数年連続して報告されてい

る。「中原徳太郎の役割」は建学の精神に基づき学校を発展させた顕彰のための演題であった。

川島真人先生は母上川島ミツエについて、卒業された東洋女子歯科医学専門学校の沿革とともに報告された。母上に関する事柄は愛情に満ちていて、当時としては珍しかった女子歯科医としての奮闘記でもある。誠に微笑ましい一面を持った報告であった。

稲松孝思および松下正明両先生の「渋沢栄一」は、筆者が数年にわたって高松凌雲の事跡の探索に関わったので、興味深く拝聴した。対仏中の「渋沢日記」は詳細をきわめ、会計担当ただけに、当時のパリと江戸との物価や流通問題についての記述は欠かせない史料である。凌雲の「同愛社」を暖かく見守ったのは、渋沢の功績の一つとあってよい。

牧野 洋先生の「パリにおける医学史関連史跡・博物館の現況」も、これに関して実際に留学中垣間見てきた筆者にとっては、懐かしい事項の多い演題であった。筆者も演者が感じるように、文化的遺構の多いフランスが古いものを取り壊し、近代的なものに変容する傾向があるのを憂えている。特にオスマン男爵のパリ改造前の遺構の保存に当局の叡智を期待したい。

以上、筆者が興味を持って拝聴した演題をピックアップして、記述した印象である。いささか偏見に満ちている、とのお叱りがあるかも知れないが、お許しくださいれば幸いである。

演題は終始活気に満ちた討論があり、演題時間も厳守されるようになり、喜ばしい次第である。

最後にこの学会を見事に盛会裡に運営された、西巻明彦会長ならびに関係各位に厚くお礼を申し上げます。

第114回日本医史学会総会 会員大会

去る平成25年5月11日(金)に社員総会が順天堂大学医学部センチュリータワーで、11日(土)には会員大会が日本歯科大学生命歯学部 富士見ホールで開催されました。下記の報告が承認され、協議事項については、第5号議案を除く議案は可決されました。第5号議案は常任理事会にて継続審議となりましたが、平成25年6月5日(水)に開催した常任理事会にて審議の結果、可決されました。

I. 報告事項(平成25年3月31日現在)

1. 平成24年度庶務報告

(1) 会員の動静

- ・ 入会者 45名
- ・ 退会者 46名

死亡会員 10名

碓井静照(平成24年5月8日逝去)

小高 健(平成23年12月23日逝去)

北小路博央(平成24年9月11日逝去)

鈴木英鷹(平成24年10月23日逝去)

中尾英雄(平成24年5月29日逝去)

中山 沃(平成24年5月24日逝去)

中村新三(平成25年1月30日逝去)

廣谷速人(平成25年2月10日逝去)

堀内淳一(平成24年10月7日逝去)

森 納(平成24年12月6日逝去)

都合退会 36名

- ・ 現在会員数 814名

正会員	759名	(内 団体会員27名, 海外会員44名)
名誉会員	6名	功労会員 20名
賛助会員	3名	学生会員 26名

○秦温信先生(札幌)が3/25にご逝去されたとの報告があった。

(2) 受賞

平成24年4月29日

瑞宝小綬章

丹羽寛文

平成23年6月11日

第18回日本医史学会学術奨励賞

ヴィグル・マティアス, 町泉寿郎

平成23年6月11日

第24回矢数医史学賞

青柳精一

平成24年11月12日

第10回パピルス賞

槇佐知子

平成24年9月30日

第16回東亜医学協会賞

松岡尚則, 栗林秀樹, 別府正志,
山口秀敏, 岩井祐泉, 牧角和宏,
秋葉哲生, 笛木 司

2. 平成24年度事業報告

事業名		内容	
日本医史学雑誌		第58巻第2・3・4号, 第59巻第1号 発行	
第113回日本医史学会総会 会長 寺野 彰		獨協医科大学 (下都賀郡壬生町)	平成24年6月16日(土) ~17日(日)
日本医史学会月例会		順天堂大学	1, 3, 4, 5, 10, 11月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学歯学部	平成24年9月8日(土)
五史学会合同例会 (日本医史学会12月例会)	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・日本看護歴史学会との合同	
		順天堂大学	平成24年12月8日(土)
神農祭	協賛	湯島聖堂	平成24年11月23日(金)
杉山検校生誕400年記念事業	協賛	(継続)	
第二回在来知歴史学 国際シンポジウム in 佐賀	後援	佐賀大学	平成24年10月25日(木) ~28日(日)
第20回医療文化史サロン展	後援	護王会館	平成24年11月1日(木) ~3日(土)
国際シンポジウム ヒーリング・オルタナティブス ーケアと養生の文化	後援	国立民族学博物館	平成24年11月11日(日)
日本薬史学会2012年会	後援	東京大学	平成24年11月17日(土)

3. 第25回矢数医史学賞選考委員会報告

奥沢康正「冬虫夏草の文化誌」(石田大成社)

4. 第19回日本医史学会学術奨励賞選考委員会報告

月澤美代子「明治初期日本における医療情報の伝達 —西南戦争・コレラと皮下注射法の普及—」

(日本医史学雑誌第58巻第4号掲載)

5. 関連医史学団体報告(資料A)

6. その他

II. 協議事項

第1号議案 平成24年度決算報告に関する件(資料1-2)

第2号議案 平成25年度事業計画案に関する件

事業名		内容	
日本医史学雑誌		第59巻第2・3・4号, 第60巻第1号 発行	
第114回日本医史学会総会 会長 西巻明彦		日本歯科大学生命歯学部 (東京都千代田区)	平成25年5月11日(土) ~12日(日)
第115回日本医史学会総会 会長 ヴォルフガング・ミヒェル	(準備)	九州国立博物館 (福岡県太宰府市) ※歴史マップ制作を検討中	平成26年5月31日(土) ~6月1日(日)
第116回日本医史学会総会 会長 小曾戸洋	(準備)	三井ガーデンホテル 大阪淀屋橋(大阪市)	平成27年4月25日(土) ~26日(日)
日本医史学会月例会		順天堂大学	1, 3, 4, 6, 10, 11月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学歯学部	
六史学会合同例会 (日本医史学会12月例会)	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・ 日本看護歴史学会と、本年度より洋学史学会が加わり 6学会合同	
		順天堂大学	平成25年12月14日(土)
神農祭	協賛	湯島聖堂	平成25年11月23日(土)
杉山検校生誕400年記念事業	協賛	(継続)	
第21回医療文化史サロン展	特別協力	護王会館	平成25年11月1日(金) ~3日(日)

第3号議案 平成25年度予算案に関する件(資料3)

第4号議案 役員の改選に関する件(資料4)

第5号議案 学術奨励賞の名称変更に関する件(資料5)

III. その他

資料1

貸借対照表
平成25年3月31日現在

科 目	金 額	備 考
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	112,246	
預金	3,997,006	
流動資産 合計	4,109,252	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産 合計	0	
(2) 特定資産		
特定預金	9,704,410	
矢数医史学賞基金	5,020,555	
斉藤脩基金(学術奨励賞基金)	1,565,978	
特定資産 合計	16,290,943	
(3) その他固定資産		
その他固定資産 合計	0	
固定資産 合計	16,290,943	
資産 合計	20,400,195	
II 負債の部		
1. 流動負債		
前受金	3,505,000	
預り金	5,730	
流動負債 合計	3,510,730	
2. 固定負債		
固定負債 合計	0	
負債 合計	3,510,730	
III 正味財産の部		
1. 一般正味財産		
正味財産 合計	16,889,465	

資料2

正味財産増減計算書

自平成24年4月1日
至平成25年3月31日

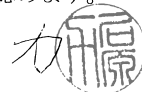
科目	金額	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 会費収入	5,565,000	
② 助成金	0	
③ 寄付金	809,918	
④ 雑誌購読料等	611,830	
経常収益計	6,986,748	
(2) 経常費用		
① 学会誌刊行費	4,256,787	
② 事業費	1,219,870	
③ 人件費	3,034,302	
④ 会議費等	107,424	
⑤ 旅費交通費	446,960	
⑥ 通信・運送費	163,485	
⑦ 事務費	139,012	
⑧ 支払手数料	150,000	
⑨ 雑費	13,860	
経常費用計	9,531,700	
当期経常増減額 = (1) - (2)	-2,544,952	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
① 受取利息	3,889	
経常外収益計	3,889	
(2) 経常外費用		
① 名簿製作費	704,527	
経常外費用計	704,527	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	-700,638	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	-3,245,590	
一般正味財産 期首残高	20,135,055	
一般正味財産 期末残高	16,889,465	
II 正味財産期末残高	16,889,465	

定款第31条に従い、平成24年度の資産及び会計について監査した結果、決算報告書は正確かつ妥当であることを認め、理事の職務執行に不整の点はないと認めます。

平成25年4月10日

監事

石原



監事

高橋



資料3

平成25年度予算

科目	決算		予算	備考
	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日			
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 会費収入	5,565,000	7,800,000		
② 助成金	0	0		
③ 寄付金	809,918	800,000		
④ 雑誌購読料等	611,830	600,000		
経常収益計	6,986,748	9,200,000		
(2) 経常費用				
① 学会誌刊行費	4,256,787	4,250,000		
② 事業費	1,219,870	1,300,000		
③ 人件費	3,034,302	3,000,000		
④ 会議費等	107,424	100,000		
⑤ 旅費交通費	446,960	450,000		
⑥ 通信・運送費	163,485	170,000		
⑦ 事務費	139,012	80,000		
⑧ 支払手数料	150,000	150,000		
⑨ 雑費	13,860	14,000		
経常費用計	9,531,700	9,514,000		
当期経常増減額 = (1) - (2)	-2,544,952	-314,000		
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
① 受取利息	3,889	3,889		
経常外収益計	3,889	3,889		
(2) 経常外費用				
① 名簿製作費	704,527			
経常外費用計	704,527	0		
当期経常外増減額 = (1) - (2)	-700,638	3,889		
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	-3,245,590	-310,111		
一般正味財産 期首残高	20,135,055	16,889,465		
一般正味財産 期末残高	16,889,465	16,579,354		
II 正味財産期末残高	16,889,465	16,579,354		

資料4

一般社団法人 日本医史学会 役員氏名 (五十音順・敬称略 ○は新任)

- 理事長** ○小曾戸 洋
副理事長 坂井 建雄
常任理事 ○田中 祐尾, 真柳 誠, ヴォルフガング・ミヒェル
監事 ○蔵方 宏昌, ○柳澤 波香
理事 遠藤 正治, 川嶌 真人, ○澤井 直, 新村 拓, ○園田 真也,
 西巻 明彦, 松木 明知, 松下 正明, ○横山 巖
代議員 相川 忠臣, 青木 歳幸, 赤祖父一知, ○猪飼 祥夫, 岩崎 鐵志,
 遠藤 次郎, 小形 利彦, 片桐 一男, ○上林 茂暢, 佐藤 裕,
 渋谷 敏, ○志村 俊郎, 鈴木 晃仁, ○関根 透, 瀧澤 利行,
 ○月澤美代子, 寺澤 捷年, ○橋本 明, 花輪 壽彦, ○葉山美知子,
 樋口誠太郎, ○樋口 輝雄, 昼田源四郎, 町 泉寿郎, ○宮川 浩也,
 山内 一信, 山田 和夫, ○渡部 幹夫
名誉会員 ○石原 力, ○奥沢 康正, 蒲原 宏, ○酒井 シヅ, 杉田 暉道,
 高島 文一, ○高橋 文, 寺畑 喜朔, 長門谷洋治, 深瀬 泰旦
功労会員 会田 恵, 青木 國雄, 青木 允夫, 荒井 保男, 大島 智夫,
 小田 皓二, 加藤 四郎, 唐沢 信安, 小林 晶, ○島田 保久,
 白崎昭一郎, 高橋 昭, 立川 昭二, 戸出 一郎, ○友吉 唯夫,
 中橋 彌光, 原 敬二郎, 原田 康夫, ○藤倉 一郎, 正橋 剛二,
 松尾 信一, 山田 光胤, 山之内卯一

資料5

学術奨励賞の名称に関する件

「日本医史学会学術奨励賞」を、「富士川游学術奨励賞」へ改称することを提案する。

富士川游学術奨励賞規定

- 1) 日本医史学会（以下学会という）に、受賞者のこれからの医史学研究の発展を期待することを目的とし、「富士川游学術奨励賞」（以下奨励賞という）を設立する。
- 2) 奨励賞は『日本医史学雑誌』（以下学会誌という）に掲載された原著論文のうちから、優れた業績にたいして授与するものとする。但し、過去の当賞受賞者（筆頭執筆者）はその対象としない。授賞は各年度に一篇とする。受賞者には、副賞を贈る。
- 3) 受賞者は、学会理事・代議員の投票により選出された第三位までの論文の中から、学会理事会が選任した選考委員会の選考をへて、これを決定する。
- 4) 授賞の対象は、授賞前年の学会誌に掲載された原著論文とする。
- 5) 授賞は、当該年度の学会総会でおこなう。
- 6) 選考委員会の規定は別にこれをさだめる。

付 則

この規定は平成6年5月14日から実施する。

この規定は平成21年6月6日改定。

この規定は平成25年5月11日改定。

(資料A)

平成24年度 関連医史学団体報告

北海道医史学研究会 事業報告

北海道医史学研究会幹事会

平成24年4月4日・北海道医師会館

議題及び承認事項

1. 合同学術集会について

北海道医史学研究会が当番幹事，10月13日午後3時から開催

平成24年度北海道医史学研究会 総会

平成24年10月13日 北海道医師会館

第7回医史・薬史合同学術集会

平成24年10月13日 北海道医師会館

〈プログラム〉

開会挨拶 (15:00~15:10)

北海道医史学研究会代表幹事 島田保久

日本薬史学会北海道支部長 高田昌彦

特別講演 (15:10~16:10) 座長 島田保久 (北海道医史学研究会代表幹事)

「近代蝦夷地図の変遷」

講師 高木 嵩世芝 (北海道史研究協議会会員)

一般演題 I (16:20~16:50) 座長 寺沢浩一 (北海道医史学研究会)

1. 安政5年，北蝦夷地における種痘について

○永野正宏

2. 関場不二彦著「西医学東漸史話」にみられる甫筑国訓編「瘍府」について

○秦 温信・佐々木文章・吉田純一・松岡伸一・佐野文男・島田保久・鮫島夏樹

3. 緒方洪庵と適塾に宿るフーフエラントの精神

○鈴木重統

一般演題 II (17:00~17:20) 座長 富所謙吉 (日本薬史学会)

1. 寛政11年の蝦夷地採薬使

○佐藤麻莉

2. 『衛生彙纂 尚薬必携』(明治10年)

○本間克明

閉会挨拶 (17:20~)

西部三省 (日本薬史学会)

以上

島田保久 (北海道医史学研究会代表幹事)

新潟支部 報告

今年度は支部としての例会，研究発表は行われなかった。支部事務局の所在は従来どおり，日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

平成24年(2012年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

1) 学会・研究会などでの発表

①第113回日本医史学会総会(6月16～17日 栃木県下都賀郡・独協医科大学)

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 佐藤精一郎と東京医学院 | 樋口輝雄 |
| 『家庭衛生及び治病』(大正4年刊)にみる高木兼寛の看護観 | 平尾真智子・中村節子 |
| 『看病手引歌』(文政10年刊)にみる仏教思想に基づく看護 | 蝦名總子・平尾真智子・芳賀佐和子 |
| 「温疫論」と伝染概念 | 西巻明彦 |

②日本医史学会関西支部2012年秋季学術集会(11月11日 京都市下京区・龍谷大学)

- | | |
|--------------------------|-------|
| 明治最初の翻訳看護書『看病心得草』(明治7年刊) | |
| 一田代基徳『文園雑誌』第5冊付録一 | 平尾真智子 |
| 平治物語絵巻にみる口腔表現 | 西巻明彦 |

③日本医史学会月例会(東京文京区・順天堂大学)

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 〈10月例会〉「温疫論」と「断毒論」の比較考察 | 西巻明彦 |
| 〈12月例会〉伊澤信平と歯科医術 ―ハーバード大学に留学した蘭軒の孫― | 樋口輝雄 |

④第22回日本歯科医学会総会

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 〈ポスター発表〉(11月9日～10日 大阪市住之江区・インテックス大阪) | |
| 源氏物語絵巻にみる口腔観 | 西巻明彦 |
| 占領期日本の歯科医学教育改革：GHQ/SCAP/PHW 文書を資料として | 樋口輝雄 |

⑤第40回日本歯科医史学会総会(10月13日 東京都千代田区・日本大学歯学部)

- | | |
|----------------------------|------|
| 東京の都市形成と医療(その1) | 西巻明彦 |
| 醒ヶ井の湧水と古代医療 | 西巻明彦 |
| 静嘉文庫蔵平治物語絵巻の考察 | 西巻明彦 |
| 『断毒論』版木押収事件に関する考察 | 西巻明彦 |
| L.リンゼイ『歯科医学小史』(1933年刊)について | |
| (1)『歯科医学小史』の書誌 | 樋口輝雄 |
| (2)『歯科医学小史』に掲載された日本の歯科事情 | 樋口輝雄 |

⑥第33回ナイチンゲール研究学会

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 昭和15年に今井よねが刊行した紙芝居「ナイチンゲール」 | 平尾真智子 |
|-----------------------------|-------|

⑦日本看護歴史学会第26回学術集会(8月26～27日 東京都渋谷区・日本赤十字看護大学)

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| 〈テーマセッション〉ナイチンゲール『看護覚え書』の神の法則の意味 | 平尾真智子・月澤美代子 |
| 〈ワークショップ〉看護歴史研究の方法論 | 平尾真智子 |

⑧第24回日本医学図書館協会北信越地区研修会

- | | |
|-------------------------------|------|
| (9月7日 新潟市中央区・日本歯科大学新潟生命歯学部) | |
| カルヴィン・カッターの衛生啓蒙書と和訳本 ―明治翻訳事情― | 樋口輝雄 |

⑨にいがた市民大学市民企画講座(11月24日 新潟市中央区・クロスパル新潟)

新潟の医の先駆者 —病気にならない社会の為に尽くした先人—

樋口輝雄

2) 著作ならびに論文等

- ・支部長中山沃博士追悼—その生涯と業績の思い出,
医譚復刊26号(通巻113号), 2-7. 蒲原 宏
- ・整形外科の歴史(175)~(186) —アメリカ整形外科の近代化(25)~(36)— 蒲原 宏
※“整形外科の歴史”は『整形外科看護』17巻1号~12号(2012年1~12月)に連載
- ・ナイチンゲール『看護覚え書』の神の法則の意味
—ナイチンゲール看護論を真に理解するための手がかり—,
看護歴史研究, 第6号, 22-33. 平尾真智子
- ・光明皇后の施浴伝説形成と洗浴に関する仏典,
仏教看護・ビハーラ, 第7号, 96-112. 平尾真智子
- ・書評: 香月牛山原著・中村節子翻刻・訳注『老人必用養草—老いを楽しむ江戸の知恵』,
日本医史学雑誌, 58巻3号. 平尾真智子
- ・北区内島見・近藤家文書について(その一 当道座文書について),
新発田郷土誌, 第40号, 115-126. 広瀬 秀

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館内
 電話 025-267-1500 FAX 025-267-1134
 日本医史学会新潟支部(樋口輝雄)

北陸医史学会 総会・例会報告

第34回総会・例会を以下の通り開催した。

日時・平成24年7月8日(日)

会場・金沢医科大学アナトミーセンター

午前10時定刻開会~午後2時半閉会

1. 会長挨拶

2. 研究発表(午前の部)

- ①スロイス「究理学」光学講義から日光顕微鏡について 板垣英治
- ②金沢医学館初期入学生について 赤祖父一知, 山本 博, 山本 健
- ③富山売薬が育んだ富山のものづくり 須山成彰

3. 総会・昼食

4. 研究発表(午後の部)

- ④公文書にみる明治・大正期の高岡市の衛生行政 太田久夫
- ⑤医学絵葉書の収集 —似島陸軍貿易所— 寺畑喜朔

事務局

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大字1-1
 金沢医科大学看護学部内 篠原治道

日本医史学会神奈川地方会

第39回神奈川地方会秋季例会と日本医史学会9月学術例会の合同例会

日時：平成24年9月8日(土) 午後1時～午後5時

場所：鶴見大学歯学部3号館2階3-1

総会

1. 荒井保男新会長挨拶
2. 杉田暉道名誉会長就任の花束贈呈
3. 会計報告

一般講演

1. 鈴木高遠 「1860年代横浜：わが国の近代眼科医療の曙」
2. 津田昌利 「精神医療の横浜病院100周年の歩み」
3. 佐分利保雄 「子宮頸がんの予防ワクチン」
4. 上坂良子 「近代看護婦田中定の業績と今日的意義」

特別講演

渡邊昭彦先生 「オスラーの教え子・佐伯理一郎の人と業績&新渡戸稲造との交流」

日本医史学会神奈川地方会・会長講演 第54回神奈川医学会総会・学術大会

日時：平成24年11月23日(祝) 午前10時50分～11時20分

場所：神奈川県総合医療会館7階大講堂

演題：「日本医史学会神奈川地方会の歩み」 荒井保男会長

第40回神奈川地方会春季例会と日本プライマリ・ケア神奈川連合会支部集会と合同例会

日時：平成25年3月23日(土) 午後1時30分～午後6時

場所：神奈川県総合医療会館 2階会議室A

第1部 杏林製薬からの話題提供「経口製剤の服用について」

シンポジウム「大切な食事と嚥下障害」

第2部 教育講演

滝上正先生「横浜のベスト史」

特別講演

深瀬泰旦先生「手塚治虫のルーツ —お玉が池種痘所蘭方医手塚良仙」

日本医史学会神奈川地方会事務局・鶴見大学歯学部人文研究室内

(文責：関根 透)

東海支部 報告

下記講演会の後援活動を行った。

『伊藤圭介日記』(第18集)出版記念会 —洋学史学会11月例会共催—

平成24年11月25日(日) 午後1時～4時15分

(於名古屋市東山植物園植物会館研修室)

【記念講演】

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 「圭介腊葉帖」から切り取られた標本(3) | 加藤僖重氏 |
| 『植学啓原』にある西洋植物学はどこから来たか II | 遠藤正治氏 |
| 『万宝叢書硝石篇』と伊藤圭介 | 杉村啓治氏 |
| 伊藤圭介の「木庵伽羅笠記」と伊藤圭介先生遺蹟顕彰会(II) | 蒲原政幸氏 |
| 江戸期から明治初期にかけての小笠原島産植物について | |
| —「小笠原嶋産物記」と「小笠原嶋航海紀聞草稿」を中心—to | 邑田裕子氏 |
| 伊藤篤太郎研究雑録(1) | 岩津都希雄氏 |

(山内一信・高橋 昭)

関西支部 活動報告

▽日本医史学会関西支部2012年秋季大会(24年度春季は開催なし)

平成24年11月11日(日) 於・龍谷大学大宮学舎 清和館 共催: 京都医学史研究会

〈一般演題〉

1. ベルツ博士の日光訪問と栄養学論議(2) 山上勝久(大阪市立大)
2. 行気銘玉杖飾—江陵張家山漢簡『引書』との関連 猪飼祥夫(龍谷大)
3. 宇山安夫大阪大学名誉教授と緒方洪庵の姻戚関係 飯塚修三(西宮市)
4. 摂州兵庫分苗所・伊藤立斎の墓碑について 古西義磨(堺市)
5. 『医心方』における鍼灸治療 島山奈緒子(明治国際医療大)
6. 京都療病院医師H.B. ショイベと欧学舎独逸学校教師R. レーマンの事跡
榊原正義(藤田保健衛生大)
7. 次郎長を看取った西洋医 ~明治の医師・植木重敏~ 植木 豊(大阪市)
8. 大関 和と柘植あいの看護教育における接点
○上坂良子(看護史研究会)・水田真由美(和医大保健看護学部)
9. 平田篤胤『医宗仲景考』について 坂出祥伸(森ノ宮医療大)
10. 「未病考」 小曾戸明子(八王子市)
11. 明治最初の翻訳看護書『看病心得草』(明治7年刊)
一田代基徳『文園雑誌』第5冊付録一 平尾真智子(長岡市)
12. 平治物語絵巻にみる口腔表現 西巻明彦(東京都)
13. 抱氏(ボードイン)「病理内科各論」の原典について 相川忠臣(活水女子大)
14. 江戸期の在村医の診療圏について 木下 浩(岡山市)
15. 中津市村上医家資料館蔵「人身連骨真形図」について
ヴォルフガング・ミヒェル(福岡市)
16. ジョン・ラングドン・ダウンの生涯と業績 柳澤波香(東京都)
17. 明治期美容産業の成立過程 ~工芸書・化粧書の分析を中心に~
○松尾靖子(奈良女子大)・鈴木則子(奈良女子大)
18. 二十世紀前半の医学・科学知識と社会 香戸美智子(高石市)

〈特別講演〉

- 『冬虫夏草の文化誌』から医史学として見えてきたもの 日本医史学会常任理事 奥澤康正

〈紙上発表〉

1. Eminent Physicians, Memoir 栗本宗治 (明渡基金)
2. 『医学天正記』のカルテに登場する人物について 葉山美知子 (鎌倉早見美容芸術専科)
3. スウェーデンにおける学校保健の新しい考え方と学校医の役割 小野尚香 (豊中市)
4. 白内障手術用メスの発展史—その1 園田真也 (枕崎市)
5. いわゆる『儒醫』についての考察—II 田中祐尾 (大阪市立大)

▽支部機関誌『醫譚』95号 平成24年7月25日発行

支部機関誌『醫譚』96号 平成24年12月25日発行

上述機関誌の掲載目次は関西支部メールアドレス (下記) をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町5-1-7 田中医院内

日本医史学会関西支部事務局 (田中祐尾)

☎: 072-922-2028 FAX: 072-993-1237 HP <http://mhkansai.umin.ne.jp/>

京都医学史研究会 活動報告

▽第233回例会 平成24年10月11日 於・京都府医師会館 (京都府医師会と共催)

講演「徳川吉宗の医学書普及政策と在村医」

京都大学大学院文学研究科教授 横田冬彦先生

▽第234回例会 平成24年11月11日 於・龍谷大学大宮キャンパス 清和館

(日本医史学会関西支部秋季大会と共催)

会員特別講演『冬虫夏草の文化誌』から医史学として見えて来たもの

奥沢康正

▽第235回例会 平成25年3月21日 於・京都府医師会館 (京都府医師会と共催)

講演『方丈記』にみる「養性」の意義

国際日本文化研究センター研究部教授 荒木 浩先生

▽第20回医療文化史サロン展「古典の日に医心方と源氏物語」

平成24年11月1日～11月3日 於・護王会館

(医療文化史サロン協賛会・京都医学史研究会 主催)

祝祭 丹波康頼生誕1100年「医心方」再生元年

講演「中世絵巻物から窺える人生模様『奈与竹物語絵巻』の場合」

鎌倉早見美容芸術専門学校講師 葉山美知子先生

▽その他 平成25年3月10日

府医師会を代表して京都医学史研究会三人が「盟親」の山脇東洋観臓記念碑に献花 (建碑から37周年)、ついで誓願寺墓地内山脇東洋夫妻の墓・山脇社中解剖供養碑に供花した。

〒604-8585 京都市中京区西ノ京梅尾町3-14 京都府医師会館内

京都医学史研究会 会長 中橋彌光

日本医史学会広島支部・岡山医学史研究会 合同学術集会

日時 平成25年1月13日(土) 13時～

場所 広島大学医学部基礎講義棟 第一講義室

1. 日本医史学会広島支部総会

2. 日本医史学会広島支部・岡山医学史研究会合同発表会

座長 広島国際大学 隅田 寛

演題1. 華岡青洲の門人, 山田好謙の履歴を検証する 江田島市 森原和之

演題2. 華岡青洲に魅せられて(その二) 門前歯科医院 門前弘美

座長 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 土肥博雄

演題3. 元岡山県知事・三木行治医師の公衆衛生② 倉敷仁風ホスピタル 高木寛治

演題4. 陸軍における脚気治療

一日露戦争期の広島予備病院における脚気患者の治療と看護を中心として一

広島国際大学 千田武志, 隅田 寛, 坂村八恵

コーヒーブレイク (10分間)

3. 特別講演会

座長 安佐医師会桑原医院 桑原正彦

①広島医学校が生んだ偉人 富士川 游先生 順天堂大学医学部特任教授 酒井シヅ

コーヒーブレイク (5分間)

座長 広島大学 河野修興

②広島の医学のあゆみ 広島市現代美術館館長 原田康夫

福岡地方会 活動報告

平成24年度福岡地方会は、下記の通り2度の研究発表会を開催いたしました。次年度も、本年度とほぼ同じ日程で開催の予定です。

第22回 福岡地方会

開催日時：平成24年8月18日(土) 14時30分から

会場：福岡ガーデンパレス (福岡市中央区天神4丁目8-15)

参加者数：17名(発表者を含む)

【発表者・演題】

お名前(五十音順)	演 題
ヴォルフガング・ミヒエル	根来東叔の「人身連骨真形図」について
木村専太郎	武谷元立家について
小林 晶	ドイツ第二帝国統治下(1872-1918)のStraßburgにおける日本人医学留学生 — フランス医史誌の報告について
佐藤 裕	アインシュタイン来福の理由(テレビ番組のDVD紹介)
柴田浩一	久保猪之吉教授による日本最初の気管支鏡下 気管支異物摘出
曾田豊二	久保猪之吉先生の自署 Sign について
富田英壽, 隈部敏明	天野甚左衛門を顕彰する(その1)
仁保喜之	橋本策博士のふるさと(その1)
原 寛	—『解体新書』から遡ること87年— 原三信の人体解剖図は何故公にされなかったのか?
丸山マサ美	福岡医科大学醫院 耳鼻咽喉科 手術候補簿の解析 —明治41(1908)年~明治44(1911)年動向 (副題) 技術補佐員の語りに見る診療風景
八木博司	八木家系図

第23回 福岡地方会

開催日時:平成25年2月16日(土) 14時30分から

会場:福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4丁目8-15)

参加者数:16名(発表者を含む)

【発表者・演題】

お名前(五十音順)	演 題
木村専太郎	伊古田純道と岡部均平 掃苔記
隈部敏明	秋月藩医 戸原 歴庵日記の一考察(その1)
小林 晶	岩熊 哲先生について
佐藤 裕	稲田龍吉年譜とレプトスピラ研究史
仁保喜之	橋本 策博士のふるさと(その2)
原 寛	—一本木庄太夫— 日本初・最古の人体解剖書の翻訳者
丸山マサ美	九州大学医学部における器物資料:病理学標本・解剖模型・整形外科器具 — 1997年実態報告—

雑報

寄贈本リスト

【単行本】

- 『額田文庫目録』「東邦大学医学メディアセンター」2012
 『東邦大学創立者 額田豊・晋 業績目録』「東邦大学医学メディアセンター」2012
 『日本の医学者・医師の「15年戦争」の加担と責任』「戦争と医の倫理」の検証を進める会 2012
 『ISHIK2012』「佐賀大学地域学歴史文化研究センター」2012
 泉孝英編『日本近現代医学人名事典』「株式会社医学書院」2012
 小堀桂一郎『日本はまだ普請中だ 森鷗外』「ミネルヴァ書房」2013
 家本誠一『傷寒論訳注』「緑書房」2013
 Nanami Suzuki『The Anthropology of Aging and Well-being』「国立民族学博物館」2013
 京都橋大学女性歴史文化研究所編『医療の社会史—生・老・病・死』「思文閣出版」2013
 佐藤雅浩『精神疾患言説の歴史社会学』「新曜社」2013
 多賀須幸男『医者たちの躰音—日本医家の苦勞話』「考古堂書店」2012
 小形利彦『～来形140年～ 山形県初代県令三島通庸とその周辺』「風出版」2013
 山崎喜代子編『生命の倫理3 優生政策の系譜』「九州大学出版会」2013
 『とちぎ メディカルヒストリー』「獨協出版会」2013
 片岡一男『蘭学家老 鷹見泉石の来翰を読む(蘭学篇)』「岩波ブックセンター」2013
 『緒方洪庵没後150周年記念 大阪の除痘館』「緒方洪庵記念財団 除痘館記念資料室」2013
 Alexander R. Bay『Beriberi in modern Japan : the making of a national disease』「University of Rochester Press」
 2012
 『写真史 習志野原の東洋学園 1946～1950』「東洋学園大学東洋学園資料室」2013
 『最後の旧制高校 東洋高等学校 —教養教育への挑戦—』「洋学園大学東洋学園資料室」2013
 家本誠一『金匱要略 訳注』「緑書房」2013
 小山聡子『親鸞の信仰と呪術 —病氣治療と臨終行儀—』「吉川弘文館」2013
 監修 池本卯典 他『獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医学概論』「緑書房」2013

【別刷】

- 『70年間の沈黙を破って—ドイツ精神医学精神療法神経学会(DGPPN)の2010年総会における謝罪表明』岩井一正「精神神経学雑誌」113(8)
 『華岡鹿城末裔所蔵の「華岡門人録」について(1)–(4)』梶谷光弘「日本医史学雑誌」58(1, 3–4)–59(1)
 『姫路種痘館と播磨国の種痘医たち』古西義麿「医譚」(通巻114)(復刊97)
 『順天堂三代目堂主・佐藤進(1845–1921), ドイツ留学から帰国まで』酒井シヅ「順天堂醫事雑誌」59(2)

【雑誌】

- 『あいみっく』33(3–4), 34(1–2) 国際医学情報センター
 『BIBLIA』(138–139) 天理図書館
 『Chinese Journal of Medical History』42(3–6), 43(1) Chinese Medical Association
 『Capsule』(91) 日本製薬工業協会広報委員会
 『Chinese Medical Journal』125(10–24), 126(1–14) Chinese Medical Association

- 『千葉県立中央博物館研究報告』13(1) 千葉県立中央博物館
『大韓韓医学原典学会誌』25(1-4), 26(1) 大韓韓医学原典学会
『だより(練馬区医師会)』(535-546) 練馬区医師会
『福井県医師会だより』(617-627) 福井県医師会
『北陸医史』(35) 北陸医史学同好会
『醫譚』(通刊113-114)(復刊96-97) 日本医史学会関西支部
『医道の日本』71(11-12), 72(1-9) 医道の日本社
『いわちどり(小笠医師会誌)』(40) 小笠医師会
『JMAJ』55(4-6), 56(1-2) Japan Medical Association
『除痘館記念資料室だより』(5) (財)洪庵記念会・除痘館記念資料室
『漢方の臨床』59(10-12), 60(1-8) 東亜医学協会
『漢方と鍼』37(4), 38(1-3) 北里研究所東洋医学総合研究所だより
『神奈川県医学会雑誌』39(2), 40(1-2) 神奈川県医師会
『研究紀要』(7) 佐賀大学地域学歴史文化研究センター
『杏雨』(16) 武田科学振興財団
『明治薬科大学研究紀要』(42) 明治薬科大学
『名古屋大学大学文書資料室紀要』(21) 名古屋大学大学文書資料室
『日本医師会雑誌』141(7-12), 142(1-6) 日本医師会
『日本獣医史学雑誌』(50) 日本獣医史学会
『日本歯科医史学会誌』30(1-2) 日本歯科医史学会
『鳴滝紀要』(23) シーボルト記念館
『労働科学』88(3-6) 労働科学研究所
『労働の科学』67(11-12), 68(1-9) 労働科学研究所
『STETHOSCOPE』(207-210) 日本医学切手の会会報
『斯文会々報』(68-69) 斯文会
『斯文』(122) 斯文会
『湘南史学』(22) 東海大学大学院日本史学友会
『適塾』(45) 適塾記念会
『洋学史研究』(30) 洋学史研究会